

アンケート等調査法の概要とメリット・デメリット

	概要	メリット	デメリット
面接調査	調査員が対象者を訪問し、インタビュー形式で質問し、その場で回答を得る方法	<ul style="list-style-type: none"> 回収率が高い。 質問量が多い。 複雑な設問ができる。 質の高い回答が得られる。 対象者以外の回答を回避できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査員の人件費がかかる。 調査員の教育訓練が必要 調査員により恣意的な回答の誘導が可能
留置調査	調査員が対象者を訪問し、調査依頼をして調査票を渡し後日回収する方法	<ul style="list-style-type: none"> 配達方法の工夫で費用の圧縮が可能 回収率が高い。 調査内容の説明が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 面接調査よりデータの質は低い。 本人が記入したかわからない。 回答時周囲の意見が影響する可能性がある。
グループ調査	対象者に会場に集まってもらい、その場でアンケートや聞き取りをする方法	<ul style="list-style-type: none"> 時間・費用の節約が可能 調査内容の説明が可能 比較的簡便 インタビュー方式も可能 	<ul style="list-style-type: none"> 来場者のみの回答になる。 発言者による歪みを引き起こす可能性がある。 回答者同士の相談が行われる。
郵送調査	アンケート調査票を対象者に郵送し、記入後、郵送返信してもらう方法	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に費用が安く済む。 広域にまんべんなく対応可能 調査員による偏りが生じない。 面接・訪問しにくい人も調査票の配付が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 回収率は低い。 協力要請方法に工夫を要する。 多くの設問は難しい。 本人確認が難しい。 時間を要する。
電話調査	調査員が電話で聞き取りする方法	<ul style="list-style-type: none"> 短期間での実施が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 質問数を多くできない。
インターネット調査	インターネットを使い、ウェブ上でアンケートに答えてもらう方法	<ul style="list-style-type: none"> 回収率が高い。 費用が安く済む。 短期間での実施が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 利用する年齢層が限定される。
提案箱（目安箱）	提案箱を適宜設置し、意見等を投函してもらう。	<ul style="list-style-type: none"> 匿名性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案箱・調査表を管理する必要がある。
絵や作文の募集	児童生徒の夢を聞くため、学校と連携し募集する。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のまちづくりへの参加が期待できる。 大人と違った発想が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校との調整が必要である。
市民懇談会	地域に出向き地元の市民と意見を交換する。	<ul style="list-style-type: none"> 直に意見交換ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日程の都合が合わないと参加できない。 発言者が限定される。
パブリックコメント	公的な機関がホームページなどを通じて広く市民に意見や情報等を求める。	<ul style="list-style-type: none"> 説明責任、公正・透明性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 提出された意見が市民の代表的な意見やニーズとは解釈できない。